



経済学部

<https://www.econ.keio.ac.jp>



経済学部公式ウェブサイト
www.econ.keio.ac.jp/



入試案内 (サイトアクセス用 QRコード →)

慶應義塾大学入学センター TEL. 03-5427-1566

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/>



交通アクセス (サイトアクセス用 QRコード →)

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/>



日吉キャンパス

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

日吉駅(東急東横線、東急目黒線、東急新横浜線／横浜市営地下鉄グリーンライン)
徒歩1分

※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。

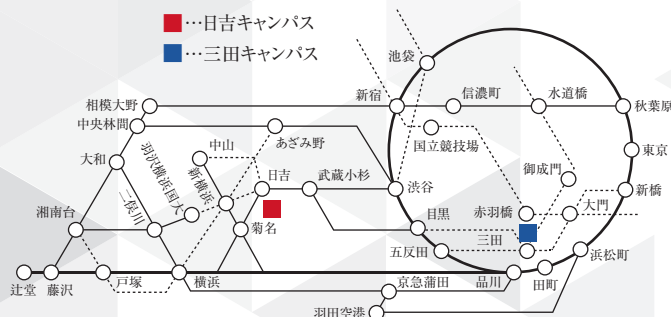
三田キャンパス

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

田町駅(JR山手線／JR京浜東北線)
徒歩8分

三田駅(都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線)
徒歩7分

赤羽橋駅(都営地下鉄大江戸線)
徒歩8分



お問い合わせ先 (サイトアクセス用 QRコード →)

<https://www.keio.ac.jp/ja/contact-us/>



TEL. 03-5427-1517(総務部)

電話受付時間 8:30～17:00(月～金)(原則)

Keio University



慶應義塾大学 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45



www.keio.ac.jp/

2025.08

慶應義塾大学

Faculty of Economics, Keio University

経済学部

学部案内

2026



Keio University

あなたの未来を拓きます

異なる入口

入試タイプ A (数学受験)

・英語
・数学
・小論文

入試タイプ B (地理歴史受験)

・英語
・地理歴史
・小論文

日吉キャンパス

経済学的
思考力を養う

■ 教養
■ 語学
■ 歴史
■ 数学
■ 経済基礎

三田キャンパス

学びを深化させる
経済5領域

■ 経済理論
■ 経済史
■ 経済政策
■ 世界経済
■ 環境・社会

異なる「入口」から経済学的思考力を養い、
経済学の専門分野を学ぶ「出口」は共通です

経済学部的一般選抜には、入試タイプA(数学利用)と入試タイプB(世界史または日本史利用)の二つの「入口」が用意されており、入試方式によって入学後の履修タイプが異なります。まず、日吉キャンパスでの第1・2学年では、より得意な分野に重点を置いて学習を始め、深い教養と経済学的思考の総合能力を養います。そして、三田キャンパスでの第3・4学年では、考える力を鍛えるための少人数教育が充実しており、かつ、幅広い専門領域から各自の関心に合わせた多様な学習が可能です。

共通の出口

未来を拓く

Future

「慶應経済人」と称された卒業生たちは、明治以降日本経済の発展に指導的役割を果たしてきました。今日の日本の経済人に期待されているのは、国際的に通用する学識と同時に、地球規模で生じている課題に対してリーダーシップを発揮できる能力です。経済学部は、このような世界を先導する新たな経済人の育成を目指しています。

広告
マーケティング

商社

製造

情報通信

金融

保険

証券

政府系
金融機関

官庁

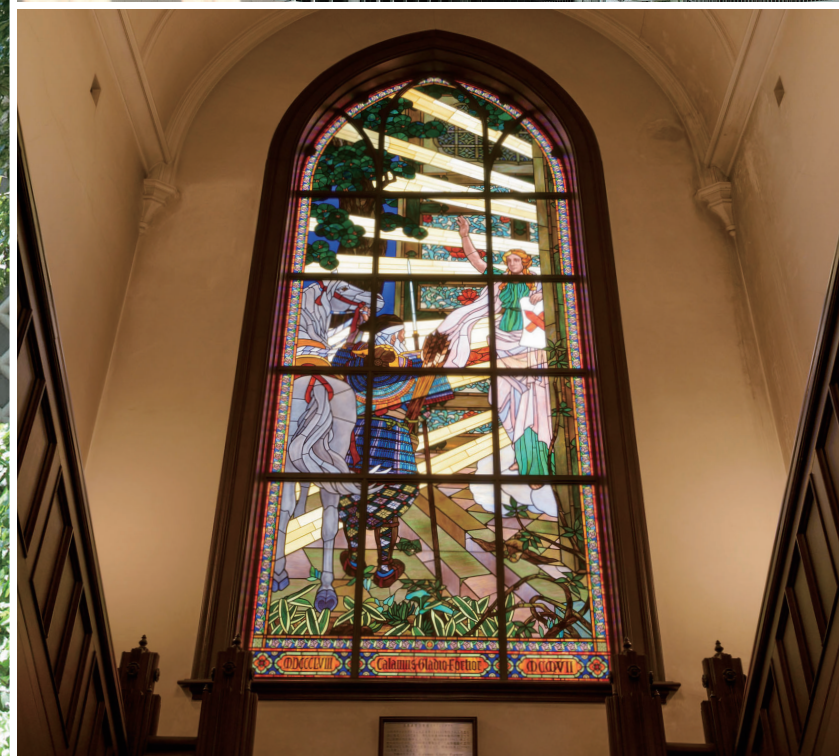
進学

公認会計士

コンサルティング

日本における 経済学の魁

日本の経済学は、慶應義塾から始まりました。前身である慶應義塾大学部理財科が明治23(1890)年に創設されて以来、本学部は日本で最初の経済学部として理論と実証の両面で日本の経済学研究をリードしてきました。さらに慶應義塾建学以来の「半学半教」の精神にのっとり、本学部は自由闊達な校風の中で先進的な経済学教育を行い、数多くの優秀な「慶應経済人」と称される卒業生を世に送り出してきました。現在、本学部の卒業生は実業界を始めとして学界、政界、官界など様々な分野で活躍しています。



Admission Policy

入学者の受入れに関する方針

社会に積極的に関与する強い意志を持ち、自らの智力によって変化する社会を把握しようという気概をもった学生を求めています。また、学問的基礎に基づいて厳密に考える能力にすぐれると同時に、バランス感覚に富み、多様なものの見方を尊重できる人材の育成を目指しています。このような知性により社会の指導的役割を担える潜在力を備えた多彩な学生を受け入れたいと考えます。

History

慶應義塾大学 経済学部の歩み

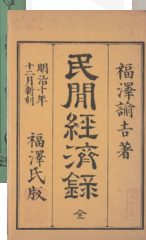
1858 安政5年に創立

開塾 福澤諭吉数え年25歳



1890 理財科の設置

経済学部の前身の理財科が発足



1920 経済学部の発足

理財科から経済学部へ



1990 経済学部発足
100周年

国際シンポジウムを開催



2008 義塾創立150年

創立150年記念式典を開催



2016 PEARLの設立

9月にPEARL第一期生が入学



慶應で、世界で経済学を学ぶ

多様な履修が可能な経済学部のカリキュラム

経済学部のカリキュラムは、学生一人ひとりの興味や目的に合わせて多様な履修の仕方ができるよう考えられています。たとえば、日吉キャンパスでの「英語セミナー」は、各教員が選んだテーマについて英語で学ぶ科目です。中級から特別上級まで、英語習得状況に合わせた履修が可能です。

4月入学

入試タイプA (数学受験)

- ・英語
- ・数学
- ・小論文

入試タイプB (地理歴史受験)

- ・英語
- ・地理歴史
- ・小論文

1年生

2年生

日吉キャンパス

2つの履修タイプで学びをスタート：教養を深める

第1・2学年では、教養科目のほかに、入試方式に応じて履修タイプA(経済理論・数学先習型)と履修タイプB(経済実態・歴史先習型)に分かれ経済の基礎を学びます。履修タイプAの学生は数学やミクロ経済学、履修タイプBの学生は経済史に重点を置いて履修します。

履修タイプBでも理系科目を学べます

地理歴史受験の場合は、履修タイプBを選択することになりますが、その場合でも必要に応じて数学の基礎知識を身につけられるように、選択科目を用意しています。

また、希望する学生は、履修タイプA・Bを問わず、東京科学大学の科目の履修も可能です。

学士課程

3年生

4年生

三田キャンパス

2つの履修タイプは三田で合流：専門科目を学ぶ

第3・4学年では、二つの異なる入口から入った学びは一つに合流し、同一のカリキュラムのなかで学びます。

経済学部の主な専門領域

- 経済理論
 - 歴史
 - 経済政策
 - 世界経済
 - 環境・社会
- 多岐にわたる専門領域から各自の関心や目的に応じて学びを組み立てます。

充実した専門教育担当教員

毎年、上記の専門領域で70前後の研究会(ゼミナール)が開講されています。

学士課程卒業

大学院 修士課程



修士課程修了
学士・修士を5年間で
修了することも可能。

PEARL (Program in Economics for Alliances, Research, and Leadership)

4年間英語で経済学を学ぶ 9月入学のプログラム

確かな経済学の知識を基礎に世界を舞台に活躍する、先導者の輩出を目的として設立されました。PEARL入学者は、筆記試験や面接を行わない、経済学部独自の入試によって選抜されます。



Global Alliance

● ダブルディグリー・プログラム

在学中に提携校に一定期間留学し、両校の修了要件を満たすことにより、卒業時に慶應義塾と提携校の2つの学位(学士)を取得します。現在の提携校は、フランスのパリ政治学院とイタリアのボッコーニ大学です。

● 学部・修士5年プログラム

3年間慶應に在籍し、その後の2年間で海外の提携校に在籍します。所定の要件を修めた経済学部生が慶應義塾大学経済学士号と海外提携校の修士号を取得できます。HEC経営大学院(PEARL生のみ対象)の他、パリ政治学院、ボッコーニ大学、ケルン大学、ブランダイス大学、スティーヴンス工科大学と提携しています。

● 交換留学(経済学部独自枠)

大学全体の募集枠とは別に、独自の募集枠を設けて世界の諸大学へ交換留学生を派遣しています。現在、アメリカやヨーロッパ、アジアの18の国や地域の大学と協定を結んでいます。(2025年4月現在)

2023年度より 3.5年早期卒業制度を導入

2023年度以降の入学者を対象に、3.5年(7学期)在学すれば卒業できる早期卒業制度を導入しました。4月入学者(タイプAB学生)の海外大学院進学支援、9月入学者(PEARL学生)の日本での就職支援、経済学研究科と連携した3.5年+1.5年の内部学士・修士5年プログラムの実現を目的としています。



研究会(ゼミナール)

将来の財産を築く2年間

専門教育科目担当の各教員が、それぞれの専門分野について指導する少人数のクラスです。原則として2年間にわたり同じ教員の下で学び、卒業論文を作成します。

PCP (Professional Career Program)

すべて英語で行う実践的な経済学教育

選抜された3・4年生を対象に、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経済学教育を、英語の少人数クラスで行うプログラムです。PCPの履修科目は全て卒業単位として計算され、プログラム内の科目全てに合格した学生には、PCP修了証が授与されます。また、海外からの留学生も多数一緒に学ぶため、留学生との交流を通じて考え方の違いを実感できることも魅力です。

DEEP (Data-driven Economics and Econometrics Program)

データサイエンスの基礎と経済分析への応用を体系的に学びます。必要単位数を取得し、成果物を提出した学生に修了証が授与されます。

FACTS (Fieldwork for Active Comprehension of Targeted Subjects)

フィールドワークをベースに仮説的論理構築能力を養成するプログラムです。必要単位数を取得し、成果物を提出した学生に修了証が授与されます。



2022年度創設

2022年度創設

研究プロジェクト

経済学にとらわれないテーマ設定が可能

学生が自ら選んだテーマについて、そのテーマに関連した専門を持つ経済学部の専任教員の指導の下、1年間で論文を完成させるコースです。徹底した少人数制がとられ、経済学にとらわれない幅広いテーマを設定することができます。社会科学のみならず、自然科学・人文科学といったさまざまな学術分野の研究が可能です。

2026年度創設予定

第二外国語プラス!

(Plurilingual and Pluricultural Studies)

第二外国語の学習を出発点にひとつの言語圏の言語・文化・社会を集中的に探究することで、経済学の専門性に加えて幅広い教養を身につけることを目指します。修了要件を満たした学生に修了証が授与されます。

Message
研究会(ゼミ)

01

研究会を通じて、多様な考え方を吸収し成長できました

私が所属する玉田康成研究会では、ミクロ経済学視点で現実経済の研究を行います。3年時には、少人数のパートに分かれて興味のあるテーマの研究と論文の執筆を行います。私のパートでは「カーシェアリングの普及戦略」をテーマに研究を行いました。日吉で学習したミクロ経済学の知識を使って現実の経済を考えることで、より体系的に理解することができました。優秀な同期とともに論文の執筆を行う中で、様々なアイデアに触れることができ、1人では得られない学びが多くありました。また、研究が行き詰まった際には教授の丁寧なアドバイスにより、納得できる論文を完成させることができました。



2024年度経済学部卒業生
(愛知県・私立愛知淑徳高等学校 出身)

Message
PCP

02

世界的に活躍するキャリアを築く第一歩としてのプログラム

PCP(プロフェッショナル・キャリア・プログラム)では、経済学の授業を英語で履修するだけでなく、自分が興味のあるテーマで実証分析と論文執筆を行います。私は3年次の秋学期から交換留学の内定をいただいていたので、留学前から留学生や帰国生と共に学ぶことができるこのプログラムに惹かれ、受講を決意しました。共同研究では、留学生と帰国生とグループを組むことで、常に自分の意見を求められながら、妥協点を見つける力や、自分の意見を通す力を磨くことができました。個別研究では、グループ研究で培った知見をもとに、教授からサポートしていただきながら、自分自身で英語論文を執筆する経験をすることができました。多様性のあるメンバーと共に学べるのがPCPの1番の魅力であると考えています。



2023年度経済学部卒業生
(岡山県・県立倉敷古城池高等学校 出身)

Message
研究プロジェクト

03

学術的に関心のあるテーマを掘り下げる特別な機会

研究プロジェクトは、1年間を通して興味のある分野で広範な研究に取り組める特別な機会です。研究テーマは経済学に限らず、多岐にわたります。私の場合、特定の出来事がグローバルな需給に及ぼす複雑な因果関係、特に波及効果に強い関心を抱くようになり、2019年の日本の対韓輸出規制措置の影響を調査することを思い立ちました。研究に没頭する中で、自分の研究テーマについて深く議論する機会に恵まれました。さらに、私が選択した分野の専門家である指導教授と緊密に協力することで、個人的なフィードバックを受けることができました。このように、研究プロジェクトは、課題に学問的に挑戦し、自分の関心分野をより深く探求したい学生にとって、貴重な機会を提供してくれます。



2024年度経済学部卒業生
(Korea International School出身)

Message
Double Degree

「先導者」に欠かせない
知性を磨く

「全社会の先導者たれ」—福澤先生が残した義塾の目的を胸に挑戦を決意しました。アジアにフォーカスしたキャンパスだからこそ得られる「外から見た日本」の視点、幅広い社会学を学ぶことで身に付くGlobal issuesに多面的に取り組む力、そしてフランス最高峰のGrande écoleの学生達と切磋琢磨し合う経験。どれも「先導者」に欠かせない要素ではないでしょうか。相応の意欲がある学生には、実り多き4年間の舞台が用意されていることを約束できます。



2023年度派遣
鈴木 貫正

Message
Double Degree

海外経験がなかった人にこそ
挑戦してほしいプログラム

海外経験がなかったからこそ感じられたものが多かったです。特に、友人関係から学業に至る、あらゆる場面で自分が弱い立場に置かれるという経験を得たことが印象的でした。社会の中で活躍できるか否かは、個人の努力や能力の範疇を超えた背景の条件に強く依存することを、身をもって感じました。同時に、創意工夫することで、言語面や文化面での壁を乗り越えられる可能性も感じ、自信も深めました。このプログラムが初の海外挑戦となる人こそ頑張ってください。

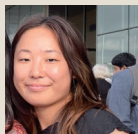


2023年度派遣
竹内 佐介

Message
Double Degree

「もう一つの家族」とともに
成長できる機会

多様な環境で育ち、多様な意見を持っている仲間と切磋琢磨できる環境で学ぶことができるプログラムです。親元を離れた異国の地での暮らしには大変なことも沢山ありますが、お互い勉強面から生活面でサポートし合ったりして、世界中に家族がいるような充実感を覚えています。また、自他の意見を通じて一つのトピックを見つめる授業方式も楽しいです。学力だけでなく、人間としても成長できる素晴らしい機会ですので、自信をもって推薦できます。



2023年度派遣
長神 和花

卒業後の進路

本学部の卒業生の就職率は高く、2024年度卒業生のうち約30％が学術研究、専門・技術サービス業、

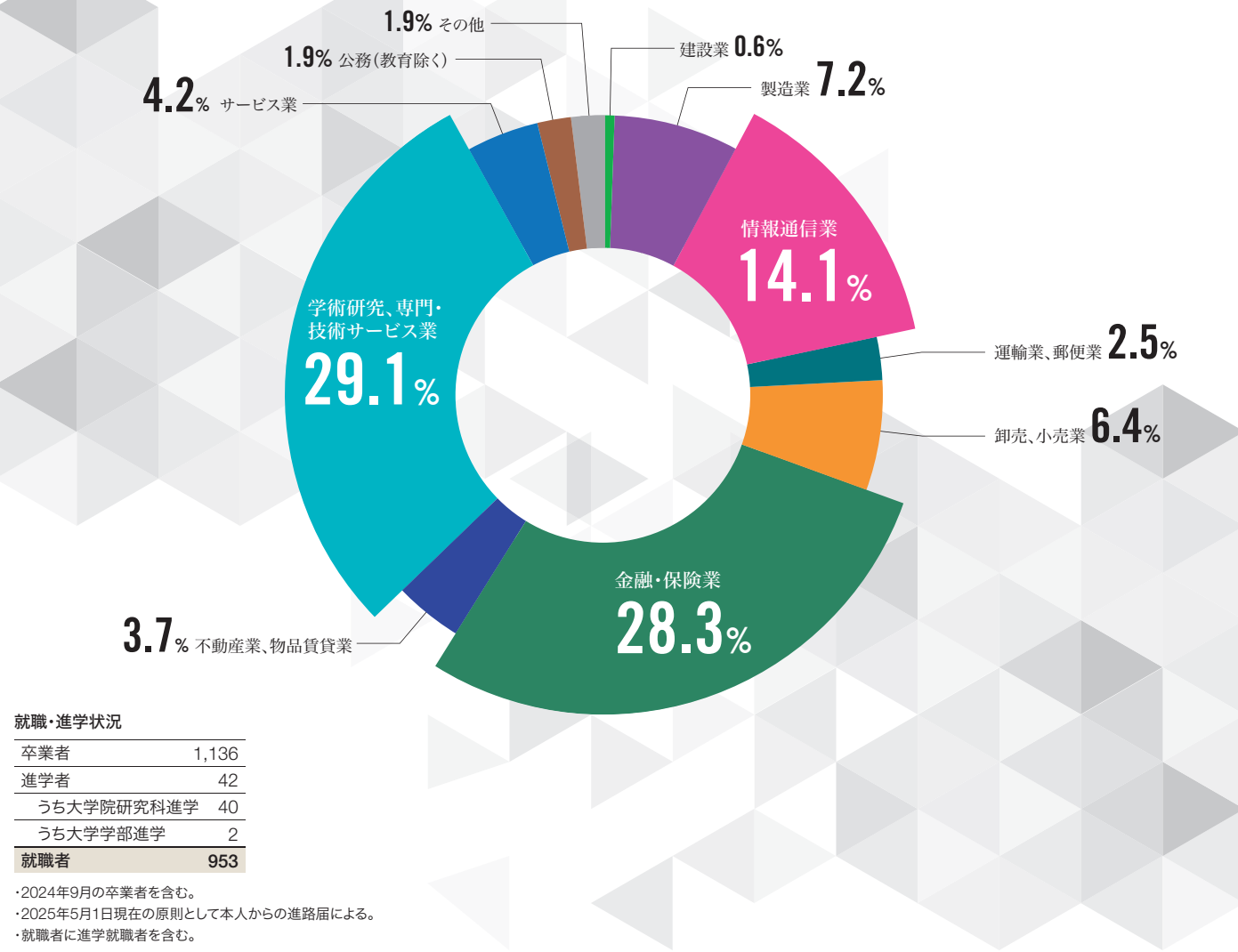
次いで、金融・保険業、情報通信業などに就職しています。

一方、在学中から公認会計士や国家公務員総合職試験の準備をする学生もいます。

また、大学院経済学研究科への進学も開かれており、他大学院研究科も含め40名が修士課程へ進学しました。

業種別進路

※四捨五入の関係により、合計100%にならないことがあります。



就職・進学状況

卒業者	1,136
進学者	42
うち大学院研究科進学	40
うち大学学部進学	2
就職者	953

・2024年9月の卒業者を含む。
・2025年5月1日現在の原則として本人からの進路届による。
・就職者に進学就職者を含む。

就職先上位ランキング ※5名以上就職先

2025年5月1日現在

1	デロイト・トーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社	32	9	三菱UFJ信託銀行	18	19	KPMG税理士法人	9	26	損害保険ジャパン	6
2	ペイカレント	31	11	EY新日本有限責任監査法人	16	19	三井住友海上火災保険	9	26	住友商事	6
3	三菱UFJ銀行	29	12	みずほ証券	14	21	SMBC日興証券	8	26	東京都	6
4	三井住友信託銀行	25	13	デロイト・トーマツコンサルティング合同会社	13	21	大和証券	8	32	オリックス	5
4	EYストラテジー・アンド・コンサルティング	25	14	東京海上日動火災保険	12	23	三井不動産	7	32	野村総合研究所	5
6	アビームコンサルティング	23	15	日本アイ・ビー・エム	11	23	明治安田生命保険相互会社	7	32	博報堂	5
7	アクセンチュア	21	15	みずほ銀行	11	26	NTTデータグループ	7	32	ファーストリテイリング	5
7	野村證券	21	15	三井物産	11	26	有限責任監査法人トーマツ	6	32	富士通	5
9	三井住友銀行	18	18	PwCコンサルティング合同会社	10	26	シンプレクス・ホールディングス	6			
						26	楽天グループ	6			



「独立自尊」の精神を胸に 新時代に挑戦しよう

経済学部長 河井 啓希

慶應義塾大学経済学部は、経済学を専攻する学部としては日本で最も長い歴史を有しています。1890(明治23)年に学部理財科として開設されて以来、日本の経済学研究をリードしてきました。さらに教員と学生とが、互いに学び合い教え合う「半学半教」の精神にもとづき、多くの優れた卒業生を、実業界、学界、政界、官界など多様な分野に送り出し続けています。

慶應義塾大学経済学部は、伝統だけでなく、内外の変化に対応しながら進化を続けています。21世紀に入ってからは、学部独自の留学制度の拡充、海外の大学とのダブルディグリープログラムの実施、実践的な経済学教育を英語によりおこなうPCP(Professional Career Program)の創設など、グローバル化への対応に注力してきました。また、規模の大きな学部でありながら、ゼミナール、自由研究セミナー、研究プロジェクトなどの少人数教育にも力を入れています。さらに、2022(令和4)年度からは、データサイエンスやフィールドリサーチへの専門性を高める履修プログラム(DEEP、FACTS)を提供しており、また2026(令和8)年度からは、多様な外国語を発展的に学ぶ「第二外国語プラス!」を開始します。

このように本学部は、経済社会を先導する人材を育成するための教育プログラムの絶えざる進化に取り組んでいます。

こうした充実した教育プログラムを実現できるのは、慶應義塾大学経済学部が、優れた一流の研究者を擁しているからです。本学部のスタッフは、経済学だけでなく、多様な分野で学界をリードし、実社会にも有益な貢献をおこなっています。この研究者たちが情熱をもって大学教育に向き合うことで、皆さんの成長を支えます。

パンデミックの発生、世界各地でおこる紛争、超高齢化の進行、AI技術の急拡大など私たちは様々な社会変革を常に求められています。そこでは旧来のやりかたに安住しては、衰退する未来しか見えてこないでしょう。

そうした時、大人がやる、誰かがやると人任せにするのではなく、慶應義塾の基本精神である「独立自尊」こそ、私たちの行動指針となるべきだと思います。「独立自尊」とは「自他の尊厳を守り、何事も自分の判断・責任のもとに行うこと」を意味します。これまで経験したことのない課題に取り組み、望ましい社会を築くためには、すべての人の積極的な意見の表明が必要なのです。

人々を説得できる意見を述べるためには、先人達が蓄えた智だけでなく、新技術を融合した新旧の智の力が必要となるでしょう。若い皆さんには、この智の力を慶應義塾で、様々な人との出会いを通じて学び、未知なる新時代への挑戦を先導する人となっていただけることを期待しています。

教員一覧

日吉キャンパスには、教養教育を担当する理系・文系のさまざまな専門分野の教員が所属しています。

三田キャンパスには、専門教育を担当する多彩な専門領域の教員が所属しています。

2025年4月1日現在

	担当科目	職位	氏名	専門領域
外国語科目	英語	教授	石井 明	音楽学(西洋音楽史)、特に17・18世紀の西洋音楽
		柏崎 千佳子	社会学(エスニシティ、ナショナリズム、移民政策)	
		鎌田 由美子	美術史学、特にイスラーム圏の美術について	
		迫 桂	20世紀後半以降のイギリス文学、エイジング・スタディーズ	
		佐々木 由美	コミュニケーション学(対人・異文化コミュニケーション)	
		鈴木 亮子	語用論(歴史語用論)、談話分析、機能言語学、社会言語学	
		永井 容子	19世紀英文学(ヴィクトリア朝小説と演劇)	
		ノッター、デビッド	歴史社会学、文化社会学、近代家族論、恋愛論	
		バティエー、ロジャー	古代歴史、ギリシアとローマの世界、欧州の歴史と考古学	
		星 浩司	理論言語学、生物言語学	
		松岡 和美	英語(手話言語学、言語獲得、統語論)	
		柳生 智子	アメリカ経済史、アメリカ研究	
		准教授	アートル、ジョン	文化人類学、考古学の民族誌、文化資源学、観光人類学など
		志村 明彦	学校英語教育におけるカリキュラムの開発・維持・評価	
		平野 邦輔	文化人類学、日本のマイノリティ、オルタナティブ教育	
		光田 達矢	近代社会文化史(食・動物・気候)	
		三原 龍太郎	文化人類学、創造産業論、アニメ研究、日本研究	
		専任講師	ソウ、クリストファー	ジェンダー論、男性学、社会学、日本研究
		ドイツ語	教授	山本 賀代
	准教授		隠岐 理貴	哲学、政治思想史(特にイマヌエル・カント)
	デーゲン、ラルフ		外国語教育学(ドイツ語教授法)、翻訳	
	山口 祐子		現代ドイツ文学・文化研究(20世紀を中心に)	
	フランス語	教授	新島 進	近現代フランス文学(ルースェル、ヴェルヌ)、SF文学
		前島 和也	言語学、フランス語学	
		准教授	大嶋 えり子	フランス政治、移民政策、植民地支配の記憶
		ソッティーエー、マルコ	社会学(移民研究)、歴史学(植民地教育研究)、言語学(フランス語教授法)	
		中川 真知子	20世紀フランス文学・思想	
福田 桃子		フランス語(フランス文学／マルセル・ブルースト)		
専任講師	山本 武男	十九世紀フランス文学、ジャポニズム		
中国語	教授	呉 茂松	政治学(現代中国論、知識人の研究、近代化)、中国語	
	千田 大介	中国通俗文芸・漢字文献情報処理		
	根岸 宗一郎	中国近現代文学、比較文学		
	溝部 良恵	中国古典文学・唐代小説		
	村越 貴代美	中国宋代の詞と音楽		
	吉川 龍生	中国近現代文学、中国映画史		
	准教授	菅野 智博	中国近現代史、東アジア史	
	専任講師	鵜浦 恵	中国古典文学(白話小説)	
スペイン語	教授	工藤 多香子	スペイン語圏カリブ海地域(特にキューバ)の文化・社会の研究	
	小原 正	スペイン植民地期のメキシコ史、特に先住民の異納と人口		
	加藤 伸吾	スペイン現代史(民主化・民主主義、歴史的記憶)		
	丸田 千花子	スペイン現代文学		
	ミヤン・マルティン、アルベルト	スペイン語学、翻訳学、日本研究(教育思想史)		
	専任講師	工藤 瞳	比較教育学(特にペルー、チリの教育政策やNGOの活動)	
	佐藤 正樹	スペイン植民地期の南米アンデス史		
総合教育科目	数 学	教授	池田 薫	数理解物理学(非線形可積分系)
		石川 昌治	数学(特異点論、多様体の幾何構造)	
		上原 崇人	数学(複素幾何学・代数幾何学・力学系)	
		桂田 昌紀	解析的整数論・ゼータ関数論	
		河備 浩司	数学(確率論、確率解析)	
		古宇田 悠哉	数学(トポロジー)	
		宮崎 直哉	幾何学(微分幾何学、大域解析学、非可換幾何学)	
	森藤 孝之	数学(トポロジー)		
	心理学	教授	中野 泰志	実験心理学、特別支援教育、ヒューマンインタフェース
	地理学	教授	長田 進	都市地理学、経済地理学、都市経済学
	丹羽 雄一	自然地理学、地形学、第四紀学		
	社会学	准教授	湯川 やよい	社会学(ジェンダー・セクシュアリティ、質的社会調査研究など)
	教授	有川 智己	コケ植物の系統分類学	
	生物学	准教授	糟谷 大河	菌類(きのこやカビなど)の系統分類学、多様性生物学
	戸金 大	両生類の保全生態学		
	物理学	教授	青木 健一郎	理論物理学(主に素粒子物理、場の理論、非均衡の物理)
	化学	教授	井奥 洪二	生体材料学・セラミック材料学・環境科学
助教	田野 千春	化学(有機化学)		
国語文学	教授	津田 眞弓	日本古典文学(主として江戸小説)	

	専攻	職位	氏名	専門領域
専門教育科目	経済理論	教授	石橋 孝次	ミクロ経済学・産業組織
			尾崎 裕之	不確実性の経済学、およびそのマクロ経済学への応用
			河合 啓一	情報の経済学・契約理論・組織の経済学
			栗野 盛光	マーケットデザイン、ミクロ経済学、ゲーム理論
			坂井 豊貴	メカニズム・マーケットデザイン、社会的選択理論

	専攻	職位	氏名	専門領域
経済理論	教授	須田 伸一	理論経済学、一般均衡理論、数理経済学	
		玉田 康成	組織の経済学、契約理論、ミクロ経済学	
		津曲 正俊	経済理論、契約理論	
		廣瀬 康生	マクロ経済学、金融政策	
		藤原 一平	マクロ経済学、国際金融論	
		藤原グレーヴァ 香子	非協力ゲーム理論およびミクロ経済学	
		穂刈 享	ゲーム理論(協力ゲーム)、数理経済学	
		千賀 達朗	企業行動・マクロ経済学	
	准教授	松田 一茂	マクロ経済学、労働経済学	
	専任講師	イ ファンユェン	マクロ経済学、国際金融	
計量・統計	教授	岡 達志	計量経済学	
		沖本 竜義	計量ファイナンス、マクロ計量経済学、エネルギー経済学	
		河井 啓希	計量経済学、実証産業組織論、医療経済学	
		長倉 大輔	計量経済学、時系列分析、フィナンシャルエコノメトリックス	
		中妻 照雄	計量・統計(ベイズ統計学、計量ファイナンス)	
		星野 崇宏	計量経済学・統計学・行動経済学・マーケティング	
准教授		秋山 裕	経済発展論、計量経済学・統計学	
片山 翔太	統計科学・高次元データ解析・因果推論			
菅澤 翔之助	統計科学・ベイズ統計学・時空間統計学			
学史・思想史	教授	佐藤 空	経済思想史、社会思想史、特に18世紀後半のイギリス社会経済思想	
		壽里 竜	社会思想史	
牧野 邦昭		日本経済思想史(近現代)		
経済史	教授	飯田 恭	ヨーロッパ社会経済史(専門は近世・近代ドイツ農村・林野史)	
		太田 淳	近代東南アジア経済史、インドネシア史	
		加島 潤	中国近現代経済史、東アジア経済史	
		神田 さやこ	アジア経済史、南アジア史	
		熊倉 和歌子	中東・北アフリカ地域の経済と環境の歴史、特にイスラーム期以降のエジプト史	
	崔 在東	近代社会経済史、ロシア経済史		
	中西 聡	日本社会経済史		
	橋口 勝利	日本経済史、日本経営史		
	長谷川 淳一	日本とイギリスの戦後史		
	産業・労働	教授	赤林 英夫	教育経済学、家族の経済学、労働経済学
井深 陽子			医療経済学	
太田 聰一			労働経済学	
亀井 恵樹			実験経済学、行動経済学、公共経済学、ビジネス経済学	
胸村 康平			社会政策	
中嶋 亮			応用計量経済学・産業組織論・労働経済学	
三嶋 恒平			工業経済論、中小企業論、国際経営論	
山田 篤裕			社会政策論、社会保障論、労働経済学	
准教授		姚 莹	医療経済学、応用ミクロ計量分析	
制度・政策		教授	新井 拓児	数理ファイナンス
	小林 慶一郎		マクロ経済学、金融危機、経済成長論	
	佐藤 祐己		金融論・ファイナンス論	
	白塚 重典		金融論、マクロ経済学、金融政策分析、物価指数論	
	寺井 公子		公共経済学、政治経済学	
	土居 丈朗		財政学、公共経済学、公共選択論	
	藤田 康範		応用経済理論・経済政策	
	現代経済		植田 浩史	日本経済史、日本経営史、中小企業論
胸形 哲哉	中国経済論(とくに中小企業)・地域経済論			
田中 幹大	中小企業論、現代日本経済史・経営史			
国際経済	准教授	大平 哲	開発経済学、地域間格差の理論分析	
		一上 響	国際金融、マクロ経済学、金融政策、ファイナンス	
		大久保 敬弘	国際貿易、空間経済、地域経済	
	教授	小橋 文子	国際貿易論、貿易政策	
		山田 浩之	開発経済学、応用計量経済学	
		准教授	笹原 彰	国際貿易論、国際マクロ経済学
		白井 義昌	経済理論、国際経済学	
		能勢 学	開発経済学、公共経済学、応用計量経済学、国際経済学	
松本 英彦	国際金融、マクロ経済学			
環境関連	教授	大沼 あゆみ	環境経済学(環境経済理論、環境政策論)	
		河端 瑞貴	空間情報科学、経済地理、都市地域政策	
		小西 祥文	実証ミクロ経済学、環境経済学、応用ミクロ計量分析	
		武山 政直	経済地理、消費者行動分析、都市メディア論	
		直井 道生	都市経済学・応用計量経済学	
	准教授	森田 香菜子	環境ガバナンス・ファイナンス、国際関係論、国際開発学	
社会関連	教授	石井 太	人口学(死亡分析、数理人口学)、年金数理	
		井手 英策	財政社会学・地方財政論・中央銀行政策史	
		難波 ちづる	フランス帝国史・植民地史	
		松沢 裕作	日本社会史(近世・近代史)	
	准教授	高橋 涼太郎	財政社会学・日本財政史・地方財政論	